

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成27年度	目標年度	平成30年度
基準排出量	(実) 15,158 (調) 15,023 t-CO ₂	目標排出量	(実) 15,614 (調) 15,469 t-CO ₂
削減率	(実) -3.0 (調) -3.0 %	削減量	(実) -456 (調) -446 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原 単 位 の 活 動 量	-	単 位	-
基 準 年 度 の 値	100.0	目 標 年 度 の 値	66.65
削 減 率	33.4 %		
延床面積、生産数量 以外の原単位を使用 した場合の理由	弊社は通信事業者であり、通信設備が主な電力消費設備である。そのため通信設備の電力消費に関連性が深い原単位分母として、梶ヶ谷センター・NTT幸では固定トラヒック (Gbps)、基地局では基地局トラヒック (Gbps)、東扇島商品センターは延床面積を用いる。 詳細計算は 原単位・寄与度算定表による。		

ウ 目標設定に関する考え方

通信業界発展の方向性が顧客数増加からIoT社会への対応に変化している状況を踏まえ業界の原単位指標が変更されたことを受け、当社の原単位分母をラック数・延床面積を固定トラヒック、受電契約箇所を基地局トラヒックと変更し、目標設定した。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）

--

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置 (第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)	通信設備においては、多数の種類、数の通信設備を有しているが、順次、電力効率(定格電力/トラフィック処理能力)の向上に繋がる設備追加、設備更新を行っていく。 また、トラフィック処理能力については余裕を持った設備能力を有することにより、設備追加、設備更新を行わない年度においても、原単位が向上する予定である。
自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置 (第 3 号該当者等)	